

● 現在の排泄ケアの問題点を共有しましょう。

- 1 排泄ケアについて感じていることを挙げてください。
(疑問に思うこと、困っていること、改善したい点 など)

- 2 周りのスタッフは、現在の排泄ケアについてどのように考えているでしょうか。
お互いの 1 を確認して、どこに疑問を持っているのか、困っているのかを共有しましょう。

- 排泄ケアへの態度を確認しましょう。
表でAとBを比較し、日頃のあなたが多く取る行動を選んでチェックを入れてください。

A		B		AとBどちらともいえず、ときにはA、ときにはBという場合、どのように判断しているか考え、以下に記入してください。
質 問	チェック	質 問	チェック	
1	おむつや留置カテーテルを自分の体につけて排泄したことがない。	1	おむつや留置カテーテルを自分の体につけて排泄したことがある。	
2	おむつをしている人に、相手を選ばず誰にでも「安心しておむつに排尿していいですよ」と声をかけることが多い。	2	おむつに排尿することよりも、トイレや尿器を当てることを勧める。	
3	担当している人の排泄障害(失禁)のタイプをいえない。	3	担当している人の排泄障害(失禁)のタイプをいえる。	
4	排泄ケアについて、自ら文献を読んだり、研修に出たりしたことがない。	4	排泄ケアに関する文献を読んだり、研修に出たりしたことがある。	
5	職場に既にあるパッドやおむつしか使ったことがない。	5	自らパッドやおむつの試供品を請求した。	
6	排泄(排尿・排便)日誌は付けていない、あるいは付けてもプランに活用していない。	6	排泄(排尿・排便)日誌をよく付けて、分析し、プランと評価に使っている。	
7	排泄ケアについて、定期的、あるいは必要時にケースカンファレンスは行っていない。	7	排泄ケアについて、定期的、あるいは必要時にケースカンファレンスを行っている。	
8	よい排泄ケアを実践したくても、結局私がやるしかない、あるいは、仲間がいないのでできないと思う。	8	よい排泄ケアを目指して一緒にできる仲間が職場に3人以上いる。	
9	排泄障害(失禁)の治療を勧めたことはない。	9	排泄障害(失禁)の治療を勧めたことがある。	
10	排泄障害のある人に関わっているほかの職種が何を考え、実践しているかわからない。	10	排泄障害のある人に関わっているほかの職種の目標、実施していることをいえる。	
11	個々人の排泄ケアがうまくいった理由、いかなかった理由を挙げられないことが多い。	11	個々人の排泄ケアがうまくいった理由、いかなかった理由を挙げることができる。	
12	目標どおりのよい結果が出ず、失敗したら、意味がないと思う。	12	目標どおりのよい結果が出ず、失敗しても、次に活かそうと思う。	
合計		合計		

● 記入した表のチェックから、課題を確認しましょう。

A		B	
質問	課題	質問	課題
1	おむつや留置カテーテルを自分の体につけて排泄したことがない。	1	おむつや留置カテーテルを自分の体につけて排泄したことがある。
	ぜひ、自分のこととして体験してみてください。		貴重な体験をしたときにどのように感じたか、ケアに活かせていますか。
2	おむつをしている人に、相手を選ばず誰にでも「安心しておむつに排尿していいですよ」と声をかけることが多い。	2	おむつに排尿することよりも、トイレや尿器を当てることを勧める。
	実際におむつに排泄することは不安がともないます。また、後始末を頼むことは負担になることを自分に置き換えて考えてみてください。		排泄日誌を活用することで成功率を上げる可能性が高くなります。排泄パターンを確認してみましょう。
3	担当している人の排泄障害(失禁)のタイプをいえない。	3	担当している人の排泄障害(失禁)のタイプをいえる。
	失禁にはタイプがあることを知っていますか。アセスメントをしていますか。		タイプによってどのような解決策があるか、理解し、実現できていますか。
4	排泄ケアについて、自ら文献を読んだり、研修に出たりしたことがない。	4	排泄ケアに関する文献を読んだり、研修に出たりしたことがある。
	文献やインターネットを探してみましょう。		文献で学んだことを実際に活用できていますか。
5	職場に既にあるパッドやおむつしか使ったことがない。	5	自らパッドやおむつの試供品を請求した。
	なぜ、そのパッド、おむつなのか、根拠を考えましょう。		パッド、おむつの特徴と利用者一人ひとりの特徴がどう合致するか、考えてみてください。
6	排泄(排尿・排便)日誌は付けていない、あるいは付けてもプランに活用していない。	6	排泄(排尿・排便)日誌をよく付けて、分析し、プランと評価に使っている。
	排泄のパターン、障害のタイプを読んでみましょう。		誘導、排泄障害のタイプ分類、治療の必要性、ケア効果の確認に活用していますか。もっと活用できないか、考えてみましょう。
7	排泄ケアについて、定期的、あるいは必要時にケースカンファレンスは行っていない。	7	排泄ケアについて、定期的、あるいは必要時にケースカンファレンスを行っている。
	排泄について話し合う必要がないか、検討してみてください。		ケースカンファレンスで話し合う内容はケアに有効ですか。
8	よい排泄ケアを実践したくても、結局私がやるしかない、あるいは、仲間がいないのでできないと思う。	8	よい排泄ケアを目指して一緒にできる仲間が職場に3人以上いる。
	私がやるしかないと思う理由は何でしょうか。ほかの人にうまく伝えていきますか。		仲間とは気持ち、情報を共有できていますか。楽しいという気持ちがありますか。
9	排泄障害(失禁)の治療を勧めたことはない。	9	排泄障害(失禁)の治療を勧めたことがある。
	失禁は年のせいとあきらめていませんか。失禁のタイプをいえますか。		治療を勧めるときに根拠を示すことができましたか。また、紹介先もリストアップできていますか。
10	排泄障害のある人に関わっているほかの職種が何を考え、実践しているかわからない。	10	排泄障害のある人に関わっているほかの職種の目標、実施していることをいえる。
	ほかの職種の目標を確認していますか。		ほかの職種が行っている内容を自分のケアに取り入れ、活かすことができているですか。
11	個々人の排泄ケアがうまくいった理由、いかなかった理由を挙げられないことが多い。	11	個々人の排泄ケアがうまくいった理由、いかなかった理由を挙げることができる。
	ケアに根拠を持っていますか。また、目標に合わせた評価ができていますか。		理由を次のケアに活かすことができているですか。
12	目標どおりのよい結果が出ず、失敗したら、意味がないと思う。	12	目標どおりのよい結果が出ず、失敗しても、次に活かそうと思う。
	疲れていませんか。プロセスを共有できる仲間がいますか。		その気持ち、態度がとても大切です。ぜひ大切に守ってください。